

NARA
OPEN FACTORY
GUIDE

体験・見学が
できるスポット
67カ所掲載!

奈良

オープンファクトリー ガイド



奈良で工場見学や
ものづくり体験!



柿の葉ずし 平宗

体験詳細
P.17

見せる現場、深める体験

記憶に残る奈良の特産



効率だけでは測れない価値を知ってもらうために

工場見学と手づくり体験を通して、奈良の特産である柿の葉ずしがどのように生まれ、今へ受け継がれてきたのかを知ってもらい、“舌”と“記憶”の両方に残る時間にしたい。そうした思いから柿の葉ずしづくり体験を始めました。

見学と体験は、2009年にこの工場へ移転した直後にスタートしました。見学通路からガラス越しにご覧いただく方式を採用し、炊飯ラインや入場前の衛生手順など、食の安全に直結する要点を丁寧に説明します。その後は「柿の葉ずしの物語」の約10分の映像を見てから、手づくり体験へ進む流れです。

見学では、製造のどこに気を配っているかが伝わることで、安心して召し上がっていただけます。「工場見学×手づくり体験」を組み合わせ、ここでしか得られない付加価値と違いをはっきり感じてもらうようにしています。生産が止まる時間帯でも、現場をお見せするのは、効率だけでは測れない価値があるからです。働く仲間にとっても、自分たちの仕事を見てもらえることが励みになります。

とりわけお伝えしたいのは、大半を「手巻き」で仕上げ

ていることです。大量生産期を除けば、機械より手の方が合理的。職人の手さばきの速さに驚かれる方が多いです。実際、1時間に600個というスピード感を知ると、皆さまの表情が変わります。「こんなに手間と文化が詰まっているのだ」という実感を、体験を通じて納得とともに持ち帰ってもらいたい。これからの柿の葉ずしの存続に不可欠だと考えています。

工場見学と手づくり体験は、柿の葉ずしを理解して味わう時間です。奈良に息づく食文化を、目と耳と手で感じていただけたらうれしいです。奈良を思い出したとき、ふと「また食べたいな」と思ってもらえる、そのきっかけをお届けしたいと考えています。



お話ししてくれたのは

株式会社 柿の葉ずし 専務取締役 平井 宗助さん



自転車で動かす編み機

体験で伝わる産地の力

創喜 (S. Labo)

体験詳細
P.11

工程の密度を、体験で「見える化」

チャリックスは“漕いで編む靴下”の体験です。まず受付でサイズや文を決め、好きな糸を三色選ぶ。あとはペダルを踏むだけで、編み機が目の前で動き出し、自分だけの一足が筒状に立ち上がっていく。そんな流れです。

この仕組みを思いついたきっかけは、工場で機械の“動き”をずっと眺めていたから。モーターの駆動と自転車の運動は相性がいい。「つなげたら、漕いだ分だけ編み機が回るはずだ」発想はそこからでした。

やってみて気づくのは、意外と多くの人が“靴下の作られ方”を知らないという事実でした。手編みは想像できても、工業用の編み機でどう編まれているかは知られていない。「知らないことを知る喜び」がここにはある。体験を通して工程を自分の身体感覚で理解できるのが、チャリックスのいちばんの価値だと思っています。

なぜ私たちがこの体験に踏み切ったのか。理由はシンプルです。いまは“物余り”で、情報もあふれている。良いもの

を作っている自負があっても、知ってもらえなければ手に取ってもらえない。だからこそ、作り手のこだわりや工程の密度を“体験”で見える化したかった。「知ってもらいさえすれば、きっと伝わる」そう考えました。

もちろん、始めた当初は『そんなことに意味あるの?』という声もありました。でも実際に回し始めると、初めて靴下が編まれる瞬間に立ち会った人の目が輝きます。出来上がった拍手が起きたり、家族や友人に話してくれたりする。体験が口コミを生み、産地のファンが確実に増えている実感があります。

もう一つの狙いは、次の担い手への入口づくりです。どの業界も人手不足という課題を抱えています。ここで“ものが生まれる瞬間”を体験して、『自分も作ってみたい』と思う人が一人でも増えたら嬉しい。子どもたちにとっても、地元のものづくりを誇りとして感じ直すきっかけになればと願っています。



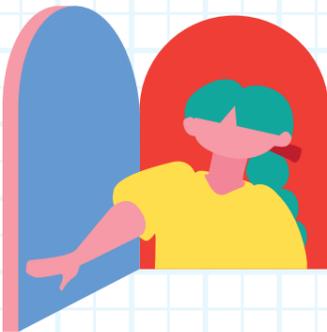
お話ししてくれたのは

株式会社 創喜 代表取締役 出張 耕平さん

扉の奥に息づく、奈良のものづくり

オープンファクトリーの楽しみ方

奈良の産業の現場を体感できる「オープンファクトリー」。
普段は入れない工場や工房の扉が開き、大型の機械が支える製造現場や職人の技を見学したり、自分でものづくりを体験したり。
工業製品から工芸品まで様々な製品が奈良で生まれていることを実感できる、そんなオープンファクトリーの楽しみ方と魅力を紹介します。



オープンファクトリーとは

01

見学する

普段見られない現場を、間近で見学！



02

体験する

実際に手を動かして、ものづくりを体験！



03

話す・つながる(交流)

職人と直接話せる、出会いと学びの場



オープンファクトリーの魅力

POINT

01 普段は入れない、生産の舞台へ



大型機械が稼働する製造ラインから、細やかな手仕事がかかる工房まで。日常では立ち寄れない空間で、製品や作品が形になる瞬間を間近に見ることができます。機械の迫力や工程ごとの工夫は、現地だからこそ体感できる魅力です。



POINT

02 つくり手と直接話せる時間



作業の合間に、素材選びの理由や技術への思い、製造に込めた背景を聞くことができます。何気ない会話から、作り手の人柄や仕事への誇りが強く伝わります。新たな視点や学びが生まれます。



POINT

03 自分で試せる、つくる楽しさ



一部の工場や工房では、組み立てや加工、伝統工芸や手仕事の体験も可能です。自ら手を動かして完成させた品を持ち帰れば、訪問の記憶が特別な形として残ります。



POINT

04 奈良の産業の輪郭が鮮やかになる



地元企業の製品や技術には、奈良の産業が育んできた歴史や文化の奥行きが映し出されています。日常で目にしていたものも、現場を訪れて背景を知ること、特別な意味を持つ存在へと変わります。



見学・体験をより楽しむためのポイント

事前準備編

✓ 予約は必要？

多くの工場・工房は少人数制・時間指定での見学や体験を行っています。公式サイトやパンフレットで予約の要否と受付方法を事前に確認しましょう。

✓ 所要時間は？

見学だけで30分～60分、体験付きの場合は90分以上かかることも。次の予定に余裕を持たせましょう。

✓ アクセス手段の確認

工場・工房は住宅街や山間部にある場合も。公共交通・車・徒歩など事前にアクセス方法をチェック。

✓ 支払い方法

体験料や商品購入は現金のみの場合も。(予約時に事前決済のみの企業もあり)小銭や少額紙幣を準備しておくとう安心です。

✓ キャンセルや遅刻時は連絡を

少人数制のため直前でのキャンセルや遅刻は大きな影響があります。必ず連絡を入れましょう。

当日マナー編

✓ 服装は？

動きやすい服・歩きやすい靴が基本。染色や食品体験では汚れてもよい服装やエプロン持参がおすすめ。

✓ 安全第一

火や刃物、重機を扱う工場・工房では指定場所から離れないこと。小さなお子さま連れは特に注意。

✓ 写真撮影OK？

撮影に制限があることも。必ず職人やスタッフに確認してから。

より楽しむコツ

✓ 質問してみよう！

「どうしてこの素材を使うんですか？」など、聞くことで意味や基準、工夫に気づき、新たな視点と学びにつながります。

✓ 見学・体験のあとに製品を購入するのも◎

作り方を知っていると、日常で使うほどに愛着が生まれ、現場の工夫や品質の理由もいっそう実感できます。

✓ 周辺スポットもあわせて訪問

訪問する工場・工房とあわせて、近隣の観光スポットも巡ると、奈良をさらに楽しめます。